

2017年(平成29年)6月4日(日曜日)

(第3種郵便物認可)

空き店舗でコンサート

秋田のNPO

地域活性化へ新たな試み

秋田市内の空き家対策を行うNPO法人「住まい安心サポート秋田」(秋田市)が3日、同市河辺戸島で旧料亭の空き店舗を活用したコンサートを開いた。県内では民家に加え、飲食店などの経営者の高齢化が進み、空き店舗が増えつつある。地域の活性化に向け、同NPOはこうした場所の活用方法を提案しようと、新たな試みをスタートさせた。



山間部に「空き家」を創出し、空き店舗を活用して行われたコンサート(3日、秋田市河辺戸島)

3日は、昨年末で廃業した旧「戸島鯉クラブ」を会場に、地域住民ら約80人が参加。地元の有志が民謡やスコップ三味線を披露したほか、旧河辺町出身の大正琴家元・中村翠笙さん(67)が「川の流れのよつこ」などを演奏した。旧料亭の2代目経営者だった岡部正高さん(75)は、「過疎化が進む河辺地区にこんな多くの人が集まってくれた。機会があれば、ぜひまた場所を提供してもらいたい」と感無量だった。

管理方法課題に

同NPOによると、秋田市内は民家の8軒に1軒が空き家だ。空き巣の侵入や積雪による倒壊の恐れがあり、管理方法が課題となっている。また、県内事業者の6、7割程度は後継者が未定といい、今後空き店舗や空き事務所がさらに増えると懸念されている。

2年前に設立した同NPOは、市内の空き家の売買や賃貸について、所有者や移住希望者から無料で約50件の相談を受けてきた。必要に応じて弁護士や不動産会社との橋渡し役も担う。空き家周辺のパトロールも行っている。

法人の佐々木義文理事長(67)は「人口減で税収が減る一方の行政だけに頼ってはいけない。住民主体でモデル的な活用を行うべきだ。放置すれば負の遺産となる場所を、『地域の財産』にしていきたい」と意義を語った。問い合わせは同法人(018-8338-4720)へ。